

## 当院脳卒中患者における睡眠時間と機能改善の関係について

社会医療法人 凌雲会 稲次病院 リハビリテーション部<sup>1)</sup>

社会医療法人 凌雲会 稲次病院 診療部<sup>2)</sup>

独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 総合リハビリテーションセンター<sup>3)</sup>

○土井大介<sup>1)</sup>, 一宮晃裕<sup>1)</sup>, 稲次正敬<sup>2)</sup>, 湊省<sup>2)</sup>, 稲次圭<sup>2)</sup>, 稲次美樹子<sup>2)</sup>, 高田信二郎<sup>3)</sup>

### 【諸言】

臨床現場において、患者から不眠が非常に苦痛となるという訴えをよく聞く。睡眠障害が脳へ与える影響として、集中維持、記憶学習、感情制限機能、創造性、意欲等の低下がみられ、また認知機能を司る前頭連合野や感覚処理運動を行う頭頂連合野、さらに前頭前野にも影響を及ぼすという報告もある。そこで、当院に入院した脳卒中患者の夜間の睡眠時間と生活機能の改善の関係性を見ることで、リハビリテーションにおける睡眠の影響を調査した。

### 【対象】

平成 29 年 1 月から 11 月までの 11 か月間、脳血管障害で当院を退院した患者のうち、実績指数除外対象患者、Japan Coma Scale が清明以外の者、当院入院期間が 30 日未満の者を除いた 32 名（男性 18 名、女性 14 名。平均年齢  $70.5 \pm 13.9$  歳）。

### 【方法】

入院期間における看護記録において、睡眠と覚醒の記録を抽出し、午後 9 時から翌朝 7 時までの 10 時間での覚醒時間の割合を覚醒率と定義したうえで、入院期間中の FIM 利得との相関性を調査した。危険率は 5%未満とした。統計処理には JMP.Ver.12.0 を使用した。

### 【結果】

覚醒率と FIM 利得に弱い負の相関性が認められた ( $r = -0.375$ )。さらに相関性低下の阻害因子となっていた 2 名を分析したところ、共に強い前頭葉の障害が見られた。この 2 名を除外した覚醒率と FIM 利得にはやや高い負の相関性が認められた ( $r = -0.609$ )。

### 【考察】

適切な睡眠時間の確保は、リハビリテーション効果を最大限に上げるため、重要な要素であると考えられる。一方で睡眠時間は個人差があり、時間ではなく質が重要であるという報告もある。今回前頭葉障害を呈した 2 症例の不眠について、前頭葉障害が睡眠障害を引き起こすか否かについては予測の域を超えない。当院ではアロマセラピーによる睡眠に対するアプローチを実施しているが、睡眠障害の分析や効果の検証には至っていない。今後はその質に関する確保も含めた睡眠障害の分析、そのアプローチ法にも着目していきたい。